

つなぐ



つながってもっとまちを元気に！

まちづくり活動マッチング事業「つなぐプロジェクト」

つなぐプロジェクトは市民活動団体と地域活動団体・学校・事業者・行政をつなぐプロジェクト。双方の強みや資源を持ち寄り、連携して事業や活動を行うことで、その効果をさらに高め、地域が活性化し、みんなが笑顔にイキイキと暮らせるまちにすることを目指しています。

2017年1月にスタートして今年で6年目になります。これまでに生まれた「つながり」は70件。これは最初に市民活動センターに申し込みがあった数で、その後も直接つながりが続いている場合もあり、実際にはもっと多くの「つながり」が存在します。

2020・2021年とコロナ禍のため、動くことのできなかつた「つなぐPJ」ですが、少しずつ活動を開始。2022年9月にはプログラムも更新しました。これまでの人気のプログラムに、新しいワークショップや講座も加わり連携をすすめてやすくなりました。

ホームページも一新。地域連携を考えている団体のみなさんはぜひ一度ご覧になってください。

※市民活動センターには冊子も用意しております。

「つなぐプロジェクト」ホームページ：

<https://tsunaguproject.jimdofree.com>



～連携団体～



おねがいます！

【地域活動団体】

- ・自治会 ・老人会
- ・こども会 ・PTA

【学校】 【事業者】 【行政】

- 子育てについて専門的なスキルを持っている人を探している
- お楽しみ会を盛り上げてほしい
- みんなで手芸を楽しみたい
- 認知症の学習会を開きたい

～提案団体～



私たちにまかせて！

【市民活動団体】

- ・子育て支援 ・高齢者支援
- ・障がい者福祉 ・環境保全
- ・国際交流 ・地域安全など

- 子育てについてお話できます
- 歌や楽器演奏、ダンスなどを提供できます
- 手作り講習会を開催できます
- 団体には認知症サポーターの資格を持っている人がいます

<最近の連携事例>

- ・みのり保育園保護者会×NPO法人浦安ダンスパーク (チーバくんダンスキャラバン)
- ・美浜北小学校PTA×新浦安マジックサークル (マジックエンタテインメントショー) ※写真左
- ・日の出南小児童育成クラブ×ファイバーリサイクルうらやす (布ぞうりをつくろう!) ※写真右



暑かったね！ 大変だったね！ でもやって良かった!!

「夏ボラ受け入れ団体交流会」 開催！

2022年夏。3年ぶりとなる「若者のための夏休みボランティア（以下、夏ボラ）」が無事開催され、中学生から20代の社会人までの168名が17のプログラムに分かれて参加しました。

9月4日には「参加証明書授与式」が、11日には「受け入れ団体交流会」が開かれました。「受け入れ団体交流会」に参加した7団体に、受け入れ時の感想や工夫した事柄を伺いました。



若者たちを受け入れた感想や工夫した点を教えてください

齋藤さん：自身の将来や身近な家族のためといった明確な目的意識を持った参加者が多かったです。積極的に高齢者の話し相手になり、本来テーマとしていた認知症だけでなく、ヤングケアラーなどそれ以外の知識についても幅広く理解を深めてもらうことができました。

高嶋さん：数時間立ちっぱなしで行うお弁当作りは、他の団体のボランティアと比べて活動時間も長く、想像以上の体力や忍耐力が必要だったと思います。イメージしていた「こども食堂のボランティア」とはかなり違うなどの印象を持ったと思います。「何事も経験してみないとわからない」ということを感じてもらえたのではないのでしょうか。

大和さん：若い人が参加することで、脳トレ教室やスクエアステップ講座が活気づき良かったと思います。若者でも初めてでは難しいスクエアステップや漢字クイズを、高齢者が着実に行う様子を見てもらうことで、経験や継続の大切さも伝わったと感じています。「若者だから、高齢者だから」という先入観にとらわれないことが大切だと気づきました。

徳重さん：ガイダンスではスタッフの説明を参加者同士で要約することで対話の機会を設けました。当日は一定の時間ごとに作業を分担し、担当が交代するときには作業内容を後任へ引き継ぐ時間を設けました。不明点に関するも前任と後任との間で解決を図るように促し、自然に助け合う雰囲気が生まれるよう工夫しました。終了時には参加者ひとりひとりと対面して、活動を通じて感じた各自の長所を伝えるようにしました。

宮田さん：参加者と高齢者が自然に交流できるように懐かしい内容の書かれた「回想カルタ」を一緒にやってもらうように工夫しました。そのため、楽しみながら高齢者と積極的に会話していたと思います。参加者から認知症について考えたり、地元で高齢者と関わるボランティア活動に関心を持つようになったとの感想を聞いて嬉しいです。

寺田さん：CAP（こどもへの暴力防止プログラム）の1つとして、大人と子どもが本音で語り合う「ぶっちゃけトーク」に参加してもらったのですが、周囲の意見に流されず、自分の意思をしっかりと持った若者が多かったことに大変感心しました。トークテーマをガイダンスの際に事前募集したことや、リピーター参加者たちがリードしてくれたことで、当日の進行がスムーズでした。

杉村さん：このプログラムではインターンシップのように職業体験的な活動をしてもらっています。今年はもの静かな印象の若者が多かったため、それぞれに敢えて苦手そうなことを割り振り、参加者同士が協力し合う体験をしてもらいました。以前中学生だった参加者が社会人となって再度参加してくれて、感慨深かったです。

コロナ禍の影響を受けて若者たちが異なる世代や他校の方々と関わる機会は減少していますが、自然な交流が生まれるよう、受け入れ団体側でさまざまな工夫がなされていたことがうかがえました。また、ボランティアはそれ自体が貴重な経験となるだけでなく、「自身の価値観を見直すきっかけや参加者同士の交流が生まれる場にもなる」ということを改めて感じました。夏ボラが、世代や学校を越えた交流や末永く続く絆が生まれるきっかけとなることを願っています。
(市民ライター 武田 めぐ)

ご参加いただいたみなさん

- タイ・ラオスの子供たちに文具を贈ろう
タイの子供たちを支援する会
「コーブクン・マーク」 徳重さん
- 語ろう！中高生のリアル
ENJOY CAP 寺田さん
- スマイル♡こども食堂のお手伝い
スマイル♡こども食堂浦安 高嶋さん
- 認知症カフェのお手伝い
NPOキラキラ応援隊 宮田さん
- 認知症&ケアラズカフェ
オムソーリ・プロジェクト 齋藤さん
- 脳トレ教室のお手伝い
- スクエアステップエクササイズのお手伝い
浦安介護予防アカデミア 大和さん
- ラジオ公開収録
浦安ネットラジオちょあへよcom 杉村さん

うらやすNPOウィーク2022～市民活動に出会う日～を開催 市内で活躍している35の市民活動団体が参加しました

2022年9月21日(水)から10月6日(木)まで浦安市役所1階市民ホールにて、うらやすNPOウィーク2022～市民活動に出会う日～を開催しました。浦安で活動している市民団体のみなさんに参加いただき、展示とワークショップ、動画の3つの部門でそれぞれの活動内容について発信。また、10月29日(土)に開催予定のまちづくり講座「国際協力の現場から学ぶ 支援すること・支え合うこと」に先立ち、特別展として「家事使用人として働く少女たち」写真展も合わせて開催しました。

展 示

1週間ごと前半と後半に分けて合計30団体が活動を紹介。来庁者の方がふらりと立ち寄りやすいオープンな展示によって、市民のみなさんが市民活動と出会う場になりました。



ワークショップ

コロナの影響により開催を見送っていたワークショップを3年ぶりに開催。8団体が参加しました。その一部を紹介します。



9月25日(日) 「レトロ風お菓子ポーチ作り」 NPOスマイラー

福祉施設へのワークショップの提供や他団体とのコラボレーションで地域貢献に取り組むスマイラー。今回のワークショップは用意されたお菓子の袋の中から好きなデザインを選び、その表面に透明な保護シールを貼り、さらに袋の口部分にファスナーやリボンの飾りを取りつけてポーチにリメイクするというもの。シールの内側に空気が入らないように子どもたちも真剣な顔で集中していました。完成したときはみんなにっこり。一生懸命つくったポーチを嬉しそうに見せてくれました。プレゼントのお菓子も配られ、たくさんのスマイラーが溢れる時間となり、「地域を笑顔にしたい」というスマイラーさんの想いが伝わってくるワークショップでした。



9月28日(水) 「出張お茶っこ会」 浦安お茶っこ会/ライラック

転入高齢者のつどい「お茶っこ会」。いつもの会場は東野パティオですが、今回はNPOウィークに出張しての開催です。「みんなの認知症予防ゲーム」を高齢者施設などで行っている団体「ライラック」の主原さんをゲストに招いて、最初にゲームを体験。まずは手遊びで場が和んだあとは、「あ」のつく言葉や「〇っ〇り」の言葉を各自考えて順に発表していきます。「さっぱり」、「しっかり」、「がっぱり…」では笑い声も。会場が変わってもいつもの和気あいあいとした雰囲気はそのままです。後半はメンバーから祝い鶴の作り方を教わり、楽しいおしゃべりの時間が続きました。浦安に引っ越してきたシニアはまず「お茶っこ会」と思えるワークショップでした。



動 画

コロナ禍の新しい取り組みとしてスタートした動画での活動紹介を今回も実施。25団体が28本の動画で参加しました。右のQRコードからぜひご覧ください。



市民活動と聞くと、堅苦しくて大変そうな印象を持たれることもあります。実際に活動をされている方たちは「楽しいからやっている」「自分自身が“整う”」「活動が自分の居場所」とお話しされます。地域に自分の役割を見つけることは、地域の役に立つだけでなく、自分がより生かされることで充実や活力を得ることにつながるのです。

(市民ライター 西橋 友理)

まちづくり講座開催のお知らせ

「国際協力の現場から学ぶ
～支援すること・支え合うこと」

1972年よりバングラデシュを中心に支援している国際協力NGO・シャプラニールの活動から「支援すること」を考えてみませんか！


いろいろな支援のカタチも見えてきます。

日時：10月29日（土） 13:30～15:00

場所：まちづくり活動プラザ・第1多目的室
（浦安市入船5-45-1）

講師：認定NPO法人
シャプラニール＝市民による海外協力の会
海外活動グループ 横田 好美さん

定員：50名（コロナ感染状況によってはオンライン開催）

 同時開催

＜フェアトレード展＞

バングラデシュ・ネパールなどの手工芸品バザー

時間：12：30～16：00



団体応援ミニ講座のご案内

センターでは、今後の活発な活動をサポートするため、さまざまなミニ講座を開催しています。個別対応ですので、お気軽にご参加ください。

日時：応相談
※日～金曜日、10時～16時
90分程度

場所：市民活動センター内

申込：要予約

定員：1団体3名程度



内容：リーフレット・チラシ作成
ホームページ作成
センター新ホームページの操作方法
※お困りのことがあれば、何でもご相談ください

備品ロッカー・メールボックス ボックスギャラリーの利用申込みについて

市民活動センターでは、市民活動センター登録団体を支援するため、活動に必要な備品などを一時保管しておくための備品ロッカーと、郵便物などを一時保管するメールボックス（レターケース）、活動で作成された作品などを飾ることのできる透明なアクリル製のボックスを貸し出しています。

（共通）

申込期間：12月1日（木）～12月20日（火）

申込方法：直接、メールで

市民活動センターへ

メール申込の際は団体名、担当者名を記載。

（抽選結果は申込みのあったメールアドレスにお知らせします）

申込多数の場合は抽選となります。

※市民活動センター開館時間のみ利用可能。

備品ロッカー

サイズ：高さ56cm×幅29cm×奥行49cm
（鍵付き）

貸出数：27 個

利用期間：令和5年1月～6月（6ヶ月）

メールボックス

サイズ：高さ7cm×幅23cm×奥行33cm
（鍵なし）

貸出数：42 個

利用期間：令和5年1月～12月（12ヶ月）

※定期的に郵便物を取りに来ることができる団体に限ります。

ボックスギャラリー

サイズ：高さ30cm×幅30cm×奥行30cm

貸出数：12個

利用期間：令和5年1月～12月（12ヶ月）

※展示物は定期的なメンテナンスをお願いします。



センター日誌より

センター備品で団体の皆さんに特に重宝がられているのが大型プリンター。横断幕やA1サイズのポスターが印刷できます。NPOウィーク用の掲示物作成でも活躍しました。最近このプリンターの出番が増えまきました。それは、少しずつ対面で交流できる機会が多くなってきたことでもあります。印刷に来られる団体さんもいきいきと見えます。やはり対面で交流できるのはいいですね。



問い合わせ・申込みは
市民活動センターまで

発行：浦安市市民活動センター
2022年10月10日

〒279-8501千葉県浦安市猫実1-1-1(市庁舎10階)

TEL: 047-305-1721 FAX: 047-305-1722

E-mail: shiminkc@jcom.home.ne.jp

URL <http://u-shimin.genki365.net>

